

「樹木の通り抜け」



概要
 設置場所：六甲山カンツリーハウス敷地内
 工期：2014.09.01 - 2014.09.11
 設置期間：2014.09.13 - 2014.11.24
 解体：2014.11.27
 用途：仮設展示物
 【主な材料】
 桁：カラマツ湾曲集成材 150×150 L=6M×2 (E105-F300) OSL
 段板：SPF 430w×225d×38t 46段 OSL
 桁接合：SPL150×600×6t 管温メッキドリフトピン 6-M12(SS400)
 桁受け金物：SPLt=19 加工ドリフトピン 4-M12(SS400)
 基礎：敷鉄板 1219×2438×19t×4枚重ね

年に一度開催されるアートフェスティバル「六甲ミーツ・アート芸術散歩」のための屋外インスタレーションである。出展作家には国立公園である六甲山の山頂の施設群において、各自場所を選択し場所の特性を活かした展示をすることが求められた。本件は公園「六甲山カンツリーハウス」の中央芝生に約70日間の設置されたものである。

中央芝生には何本か松の木が生えており、うち一本は大人の胸の高さ辺りから二股に分かれて伸びている。幹と幹の間はちょうど人ひとり分。

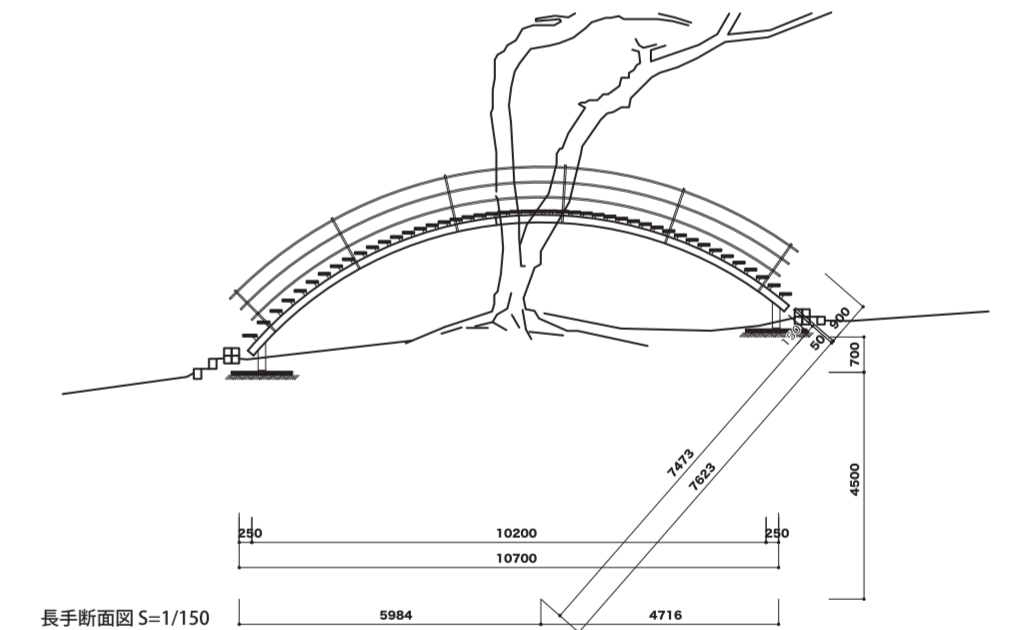
ここに橋を架けた。

二股の松は視覚的なシルエットから体験される空間となり、松の木の「こちら側」と「あちら側」が認識され、幹の「間」はそれらを繋ぐ新たな風景に気付かせる。

橋を構成するのは150角の断面を持つ湾曲集成材だ。ちょうど6M材を2本継いでいる。揺れを許容する最小限の寸法を目指した。地面とは異なる「木の空間」に意識的になれるような簡素さや柔らかさを持たせた。



短手断面図 S=1/150



長手断面図 S=1/150

